



◆謹賀新年◆



医療従事者の方々におかれましては、この年末年始も現場でのご対応に奔走されましたことに深く感謝を申し上げます。オンライン医療通訳Medi-Wayも昨年以上に外国人患者様へご利用をいただきました。近年、外国人の訪日、在留者の数も確実に増加しており、その疾患の多様性も実感しております。AIの進化も際立つものでありその利用方法も、使われる方々のご判断で決まります。私どもは、今後も人が通訳することによるその意義を深く求め続け安心・安全な医療通訳のご提供に取り組んでまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

2026年1月 東和通訳センター センター長 中牟田和彦

医療の現場アラカルト Vol.13

中国語担当 Gさん

通訳センターでのシフトは、ビデオツールの動作・接続テストを必ず行い、時間内の通訳情報を確認するところから始まります。情報なしの即時通訳も多いですが、情報がある分については、どの言語がどの時間帯に入る見込みかを通訳士同士で共有します。シフト前のブリーフィングでは、予定の共有、トラブルの有無、業務上の注意点や引き継ぎ事項、時には「Medi-Way医療通訳だより」のテーマまで幅広く話し合います。通訳対応後は報告書を作成し、各自で振り返りも行います。

自分の担当以外でも、他の通訳士の接続状況のサポートや通訳時間記録を確認したり、電話対応をしたりと、業務は多岐にわたります。また、個々の報告書のチェックや、月末の最終通訳まとめ報告作成、現場研修生の受け入れ、新人研修やロープレ、情報セキュリティ教育などもあります。さらに、毎月発送するこのお便りの封入作業と切手貼りも分担しています。毎回記念切手を準備したり、手作業をしたりと拘っています。通訳士は常に座っているイメージがあるかもしれませんが、実際は幅広い業務をこなすマルチワーカーなのです。



私たちが通訳対応をしている医療機関のほとんどは、自分が行ったことのない場所です。通訳中に「何階の検査室へ」「会計はどこで」などの案内をしながら、院内の様子を想像することもあります。先日、よく依頼のある総合病院の近くを偶然通りかかり、思わずハッとして建物の写真を撮りました。センター長が出張先から病院の外観写真を送ってくれることもあり、その時には、まるで文通相手に初めて会ったような嬉しさがあります（例えば昭和すぎですね・・・）。画面越しに出会う医療者や患者さんとは、通訳が終われば姿は見えなくなりますが、その一つ一つの時間が通訳士にとっては大切な経験として残ります。時には辛い告知の場面を担当することもあります。どんな時も、交わされる言葉と想いを誠実に届けたいという気持ちで日々業務に向き合っています。

ベトナムのお正月

ベトナム語通訳士が故郷のお正月について話してくれました。

ベトナムでは、大晦日から新年へと移り変わる瞬間に「除夜のお供え（ベトナムの年越し供え）」という伝統的儀式が行われます。家主が祖先への敬意と感謝を表すとともに、新しい1年が平安になるよう心を込めてお供え物を準備します。各家庭では、それに備えて半年前から鶏、豚、アヒル、ヤギを家で育て、年末に調理してお供するということが一般的だそうです。そして年越しの儀式を終えてお酒を飲みながら、供えた物をいただきます。鶏を丸ごと食べることができたら、その年は元気に過ごせて良いことがたくさん起こると言われています。この通訳士は一人でペロリとたいらげて、新年早々幸せな気分になったそうです♡

今月のトピックス

「医療通訳養成コースの現場実習」



Medi-Wayでは「大阪大学医療通訳養成コース」の現場実習を受け入れており、2025年10～12月には英語・中国語の受講生が参加しました。

東京や沖縄、名古屋、海外からも参加があり、言語や文化背景も多様でした。医療通訳を志したきっかけや語学学習歴の共有、通訳士自身の経験談を通じて理解を深め、ロールプレイでは改善点やメモ取りの工夫、今後の学習について助言を行いました。研修中には実際のオンライン医療通訳を間近で体験し、迅速な対応力やチームワークに感銘を受けたとの声も寄せられ、医療通訳士を目指す受講生の背中を押す機会になったと思います。

